

ブランドシリーズ広告の展開

I'm Imaging. Konica



コニカでは、この秋から“ I'm Imaging. Konica ”をスローガンに、これまであまり知られていなかったコニカの最先端技術を紹介する企業ブランドシリーズ広告の展開をスタートしています。「コニカって、こんなこともやっている企業なんだ」という点を取り上げ、コニカの新しいイメージを感じとってもらうことが目的です。

一般的にコニカは、コンパクトカメラや撮りっきりコニカで代表される、気軽に使え、親しみやすい商品の会社というイメージが強いようです。しかし、実際、単独の売上げでは、複写機やプリンターのオフィスドキュメントが一番大きく、また、収益面では、DVDやCDなどの光ディスク用非球面プラスチックレンズや、パソコンなどの液晶ディスプレイ用TAC(トリアセチルセルロース)フィルムなども貢献しています。

今回のブランドシリーズ広告では、光をイメージしてCG合成したキャラクターが登場し、このようなあまり知られていないコニカ本来の姿を紹介してまいります。



光ピックアップレンズ

CDやDVDプレーヤーの心臓部とも言われている光ピックアップレンズ。コニカは、1984年に世界で初めてCD用非球面プラスチックレンズの開発に成功して以来、超精密な設計・加工・生産技術により、光ピックアップレンズの量産化・小型化を実現させ、市場において約70%というトップシェアを維持しています。ますます多様化する光ディスク市場において、コニカはCD-R / RWやDVD系を中心とした高付加価値分野における新製品開発を推進し、お客様ニーズに応じてまいります。



TACフィルム

ノートパソコンをはじめ、各種モニター、携帯情報ツール、ゲーム機、カーナビ、テレビなど成長が著しい液晶モニター。その表面を保護しているのがTAC(トリアセチルセルロース)フィルムです。コニカは、長年にわたるフィルム生産技術を活かし、高精度な液晶偏光板用TACフィルムを開発・生産しています。液晶偏光板用TACフィルムは、従来のフィルムに比べ、はるかに厳しい光学特性・表面平滑性・加工性を要求されますが、コニカはその要件をクリアし、偏光板メーカー各社から品質面で高い評価を得ています。



医療用高精細デジタルイメージングシステム



医療の分野でもデジタル化・ネットワーク化へと市場が大きく変わりつつあります。高画質を要求される医療分野で、コニカの医療用高精細デジタル画像撮影装置「REGIUS」はデジタルの限界を超えた2018万画素を実現しました。この高画質とデジタルならではの即時性・画像加工性とが相まって、医療現場に必要な不可欠な迅速性と高精度な診断画像を提供しています。

